

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程 理系

科目

数学

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年同様、解きやすい問題が多くて計算量も多くないが、細かい所で受験生の躓くポイントがあり、完答が難しい問題もある。例年通り、証明問題が1題出題された。

〈特記事項・トピックス〉

- ・ 昨年出題のなかったベクトルが出題された。
- ・ 複素数平面が2年連続出題された。
- ・ 積分と極限の融合問題が2年連続出題された。
- ・ 数学Ⅲの微分と積分の両方が出題された。
- ・ 確率では、期待値を求める問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

まずは、基本を徹底的に身に付けること。教科書の例題レベルは完全に解けるようにしたい。また、日頃から、丁寧に記述する習慣を身に付けて欲しい。北大の問題では、計算力と論証力で高いレベルが要求されることが多い。微分や積分をはじめとする計算の問題にもしっかり取り組んでおきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	B	数列	誘導を利用して2項間漸化式の一般項を求める問題。(1)では、数学的帰納法以外に背理法による証明も考えられる。与えられた漸化式を誘導に沿って整理すると教科書にも載っている形の漸化式に帰着され、 $\{a_n\}$ の一般項を求めることができる。	標準
2	記述	Ⅲ	積分 極限	部分積分法を用いて積分計算を実行して関数 $f(x)$ を求めたあと、三角関数を含む式の極限を計算する。	標準
3	記述	C	複素数平面	条件を満たす複素数の偏角を求める問題と、複素数平面上で動点の軌跡を考える問題。北大の入試としては珍しく(1)と(2)の繋がりが無い。	標準
4	記述	C Ⅲ	空間のベクトル 微分	平面と直線の交点の座標を図形的に求めて、四面体の体積を求める。平面と直線の交点を求める部分は、ベクトルを用いた解法も考えられる。体積が分数関数で表されるので、その最小値を微分法を用いて求める。	標準
5	記述	A	確率	きちんと分類をして、条件を満たす確率を求める問題。試行回数の期待値を求めるので書き出しや計算が煩雑になりやすいが、丁寧に処理をすれば決して難しく無い。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。